

公開講演の割り当てを受けた人の覚え書き

目次

筋書きの使い方 2-7

画像の使用 8-9

話し方を磨く 10-16

1. 公開講演で教える時には、聖書から効果的に教え、話を聴く人の心にエホバへの愛を吹き込み、献身したクリスチャンが命の道を歩み続けるよう励ますことを目指します。(マタ 22:37)

筋書きの使い方

2. 筋書きを読みながら、聴衆一人一人のことを思い浮かべてください。今どんな状況で、どんな気持ちになっているのでしょうか。この話を聞いてもらいたいと思うのはなぜですか。どうすれば内容が最も心に響くのでしょうか。

3. 話の主題、副見出し、注記をじっくり考えます。その講演の目的や、話の中で繰り返されるテーマをつかんでください。

4. 要点を1つずつ積み上げるようにして話の全体を組み立てていきます。左詰めになっている部分が要点です。それらの要点をじっくり考えて、自分が聴衆に伝えたいと思う主要な考えをつかみ取ってください。要点の下に、少し右にずらして、関連する副次的な点が挙げられています。

5. 要点を支える、かぎとなる聖句を選びましょう。大抵は「読む」ように指定されている聖句です。かぎとなる聖句は十分に時間を取って説明し、例証し、適用してください。(塔研17.09 26-27ページ12節。校 53-54)

(1) **説明:** 聖句を読んだ理由がはっきり分かるようにしてください。聖句から何が分かるのでしょうか。その聖句を深く掘り下げて理解できるようにします。(格 4:5。洞-2 1169ページ3節) キーワードや大切な表現に注目させてください。その聖句から学べる大切な点を聴衆がしっかり理解するにはどうしたらよいかを考えます。聖句の文脈、背景、場面、筆者、あるいはリサーチガイドで調べた点について説明するとよいかもしれません。(教励 第6課、第18課)

(2) **例証:** シンプルな例えを使って、要点がはっきり分かり心に残るようにします。物事を何かに例えて生き生きと描写したり、聖書に出てくる実例や現代の経験談を使ったりします。内容が正確であることを確認した経験だけを使ってください。ショッキングな内容の経験は使わないようにします。出版物やJW Broadcastingからさまざまな経験を見つけられます。長々とした説明が必要な例えや、聴衆によっては気分を害しかねない例えは使わないようにしましょう。(教励 第8課)

(3) **適用:** 何をする必要があるか、どうすればそうできるのかが分かる話にしてください。実際に役に立つ話です。聴衆には高齢者、夫婦、独身の人、若者など色々な人がいます。それぞれの人たちのニーズ状況を考え、生活の中でありがちな状況を使いましょう。そうすれば、そのような状況で賢く行動するのに聖句がどのように役立つかを聴衆は思い浮かべることができます。(教励 第13課)

6. 副次的な点や「読む」ように指示されていない聖句の中からどれを使うかを選びます。要点を説明するのに一番良いものを選んでください。特定の点には時間をかけ、その他の点にはあまり時間をかけないことにしても構いません。

7. 組織が提供している筋書きに基づいて自分用のメモを作ります。多くの人は、主要な考えと副次的な点だけをごく短く書き出したものを使っています。この方法のメリットは、その場で自然に出てくる表現や言い回しを使って、生き生きと話せることです。元の筋書きの要点と副次的をもっと簡潔に書き出し、項目別に並べたものを使う人もいます。

画像の使用

8. 画像を使う場合には、品の良いものを控えめに使用します。細かな点ではなく、大切な点を強調するために使ってください。使用してよいのは静止画だけです。画像を表示したら、必ずその画像を使って教えま。見て楽しむためだけに画像を使用することはありません。また、聖句を読んでいる時には画像を表示し

ないでください。JW Broadcastingのマンスリープログラムは、公開講演での画像の使い方を示すものではありません。(教励 第9課)

9. 聖句を注意深く選んだ上でモニターに時々映すことは構いませんが、使用する聖句を毎回表示するのは良くありません。動画は、はっきり指示されているのでないかぎり使用しないでください。(手話の集会は例外です。ろう者の必要を考慮して聖句の動画を再生したり、組織から提供されている他の動画を控えめに使用したりしても構いません。) 講演で使用する写真や図、画像などを入手するために支部事務所に問い合わせることがないようにしてください。

話し方を磨く

10. 聴衆を見ながら話せば、話はいつそう印象に残りやすくなります。しかしスクリーンに講演者を映し出している場合には、カメラを見て話してください。直接聴衆に話しているのであれば、その中の1人に語り掛け、それから次の人に向かって続きを話していきます。聴衆の反応を見てください。話に対して聴衆がほほ笑んだり、じっと聞き入っていたりする様子を見ながら話せば、聴衆と会話しているかのような話になります。そういう話は心に深く入っていきます。

11. 会衆で話す前に、声に出して練習しましょう。練習を繰り返しながら、内容を練り上げ、時間配分や話し方を改善していきます。もっと具体的で実際に役に立つ内容、やる気を起させる話にするにはどうすればよいかも考えてください。このプロセスで話を完成させていくために、練習を録音する人もいます。(教励 第15課)

12. 全文原稿を作っておいてそれを読み上げるということはいけません。自分の言葉で、心から話します。ふさわしい熱意を込め、自然なジェスチャーを使い、温かくほほ笑んで話すなら、聴衆に自分の気持ちや気遣いが伝わります。(教励 第11課、第12課。校 166, 174-178)

13. 聖句を紹介する時には、質問をしたり、どんな点に注目するとよいかを述べたりして、聖句についての期待を高めてください。「この聖句はよく知っていると思いますが」とか「何度も読んだことのある聖句ですが」などと言わないようにします。聖句を読み始める前に、聴衆が聖句を見つけられるように十分時間を取ってください。聖句は正確に、意味がしっかり伝わるように抑揚をつけて読みます。聖句を読み終わった後も聖書は開いたままにしておき、キーワードや大切な表現に再度触れられるようにします。(教励 第4課、第5課)

14. 聖書の明るいメッセージや、聖書の知恵を役立てるならどんな良いことがあるかに注目させましょう。エホバの組織や会衆の兄弟姉妹に対する信頼を築く内容にしてください。聞いている人たちががっかりさせるようなネガティブなコメントや、エホバの証人ではない人たちの信念や態度やライフスタイルを見下すようなユーモアは使わないようにします。(教励 第16課)

15. 集会に新しい人たちがたくさん来ている場合には、興味を持ったばかりの人でもよく理解できる内容にします。一方、聴衆のほとんどがエホバの証人なら、会衆の伝道者たちを励ます内容に調整しても構いません。(教励 第17課、第18課)

16. 講演者としてさらに進歩したいのであれば、講演の前に補助助言者か講演の上手な兄弟に、後で意見やアドバイスを聞かせてください、と頼んでおくことができます。「教える」の冊子や「宣教学校」の本を定期的に復習しましょう。JW Broadcastingのマンスリープログラムの教え方を注意深く観察して取り入れてください。どれほど長く公開講演をしてきたとしても、誰にでも自分の「教え方」をさらに磨く余地があるのです。(テト 1:9)